《どうでもいい話、その552》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

コロナの緊急事態宣言も関西は解除され、街は一斉に人が出てきました。子供たちも休日また放課後には大勢公園に集まって遊んでいます。特に用事のないときは、健康のため家の近くを散歩することが日常になり、先日公園に行くと珍しく子供たちがシャボン玉を吹いていました。それを見て、思わず野口雨情のシャボン玉の曲が口から・・「♪シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んで こわれて消えた ♪シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 産まれてすぐに こわれて消えた ♪風、風、吹くな シャボン玉飛ばそう♪」詩人 野口雨情は幼子を亡くし、その時の親の悲痛さをシャボン玉にこめてこの歌にしたそうです。シャボン玉に生のはかなさと輝きを見つけた野口雨情の心は、親のせつない愛情にあふれています。それに比べ 虐待で命を奪われた子供たちは、シャボン玉で遊ぶこともなく、こわれて消えてしまいました。いかなる命も世界でたったひとつのかけがえのない命です。大切にしましょう！　今回は、どうでもよくない ちょっとまじめな話でした。

岩波より